

第 14 回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合 議長声明（仮訳）

山本一太 内閣府特命担当大臣（科学技術政策）

2013 年 12 月 19 日

2013 年 12 月 19 日、日本主催により第 14 回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）の大臣級会合が開催された。アジア地域から 12 か国が参加した。第 14 回 FNCA 大臣級会合を終えるにあたり、議長より以下の通り述べる。

（核セキュリティ文化の醸成）

原子力施設等を標的としたテロが現実にかかる可能性が高いという脅威を認識し、核セキュリティは国の責務であること、そのための文化醸成にも国が主導的な役割を果たすことの重要性を確認した。各国政府が主導して原子力事業者や原子力施設勤務者の関係者に対し、核セキュリティへの意識向上のためのセミナー、ワークショップ等の具体的な活動に関して議論した。日本からは、以下 3 点のイニシアチブが提案された。

1. 日本原子力研究開発機構核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）を通じ、来年末に IAEA との共催による、アジア諸国を対象とした研修を日本で実施する。
2. FNCA 各国における核セキュリティ文化を醸成する取組を、ISCN を通じて支援する。
3. FNCA のウェブサイトを活用し、核セキュリティ文化に関する各国の取組状況やベストプラクティスを共有する。

（FNCA プロジェクトの成果の活用）

放射線を利用した医療、産業、環境分野等のプロジェクトでは、FNCA 参加国の知恵と努力より、着実な成果を生み出しており、地域の社会経済的発展と福祉向上に貢献している。特に、「放射線による子宮頸がん治療」、「放射線滅菌によるバイオ肥料」、「バナナの耐病性育種の育成」などのプロジェクトは既に実用に供されていることを高く評価する。今後、他のプロジェクト成果についても、その便益をエンドユーザの手に届けるための更なる普及、商用化の方策を、FNCA 参加国のリーダーが積極的に推進することを再確認した。

(原子力平和利用とアジア地域の発展への貢献)

FNCA が、アジア地域の社会経済的発展と福祉向上に貢献するとともに、アジア地域で最高水準の原子力安全を確保するための原子力基盤整備に関する有意義な枠組であると考ええる。また、福島第一原発事故の経験と教訓に関し、日本が透明性の高い情報公開を継続することを歓迎し、それらの情報が FNCA 参加各国の原子力基盤の安全性向上に資することを確認した。